

●表面

三、「抜き出しなさい」という問題。教科書の表現から変えてはいけない。

四、「私の予感」とは同ページ(二〇行目)「何かよくないことをしてしまったという感じ」から続くもので、本人ではなく、ご両親が出てきたことから感じられる予感である。

五、広島への原爆投下日だけでなく、長崎原爆記念日(8月9日)、終戦記念日(同月15日)も忘れないこと。

※「八月や六日九日十五日」(小林良作)という川柳もある。

七、文章に傍点を付けるときは、筆者が何らかの強調をしたとき、辞書に書いてある意味とは違う、独特の意味を持たせたいときに使うことが多い。辞書には【勝手】：他人のことはかまわないで、自分だけに都合がよいように振る舞うこと。とある。辞書的な意味と彼女の発言の真意、彼女の発言を作者がどう受け取ったかをよく考えてみるとよい。

★、島崎藤村『初恋』全文(参考) 四連からなる文語詩(七五調の韻文)



現代語訳

まだあげ初めし前髪その  
林檎のもとに見えしとき  
前にさしたる花櫛はなぐしの  
花ある君と思ひけり

あの日林檎の木の下で、髪を結び上げたばかりの君を見つけました。

やさしく白き手をのべて

その大人になりたての髪に挿した花櫛が、僕には君の髪に咲いた花のように見えました。

林檎をわれにあたへしは

うすくれなゐ

薄紅の秋の実に

優しく白い手を差し伸べて、君は僕に林檎をくれました。

人こひ初めしはじめなり

その薄い紅色をした林檎を見ながら、僕は初めて恋の始まりというものを知ったのです。

わがころなきためいきの  
その髪の毛にかゝるとき

僕の口から思わずこぼれた溜息が、君の髪にかかるほど傍に居てまるで素晴らしき恋という名の盃に、二人の想いを酌んで飲み交わしているようでした。

たのしき恋の盃さかずきを

君が情に酌みしかな

林檎畑の樹の下に

おのづからなる細道は

誰が踏みそめしかたみぞと  
問ひたまふこそこひしけれ

君とのデートを重ねるうちに、いつしかリンゴの木の下には道ができ、二人の逢瀬を振り返りつつ「誰がこの道を作ったのかしらね」なんて笑う君が僕にはとても愛おしく思えるのです。

※キリスト教で人類初の男女とされる「アダムとイブ」もりんごを食べて、恥じらいや嫉妬など、人間として感じなくてもいい、醜い感情を持つようになったとされている。

八、紙面の都合上、掲載できない語句が多いが、レポートの四語以外にも教科書下段で▽の付いた語句は、学習書や辞書で調べておくこと。

九、紙面の都合上、掲載できない漢字が多いが、レポートの六語以外にも教科書下段や、P一二五の「漢字と語彙」欄の語句は書けるように、また読めるようになっておくこと。

### ●裏面

一、学習書P一二五◆要旨◆をしっかりと読めばわかるようにできている。細かい文字だが丁寧に読もう。

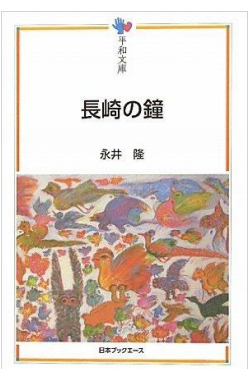
六、「一文」ではないので、広い部分をカバーして抜き出す必要がある。

八、レポートでは漢字の読み書き、語句の意味に触れる問題の数は不十分である。左に教科書の中に出てくる漢字を振り仮名つきで掲載した。充分練習して読み書きできるようになっておくこと。

せんとう	ていこう	ひき	かいちゆうでんとう	きんちよう	こきゆう	まなひ	しよち	ひろう	しようどう	ひだん
戦闘	抵抗	率いる	懐中電灯	緊張	呼吸	眼差し	処置	疲労	衝動	被弾
てつたい	しゆんかん	そうまとう	だんねん	ふしん	しょうじゆん	さくれつ	どしやぶ	こんらん	ざつぜん	むかう
撤退	瞬間	走馬灯	断念	不審	照準	炸裂	土砂降り	混乱	雑然	迎え撃つ
むざん	ぐうぜん	おえつ	えりもと	なが	とらう	たそがれ	じけつ			
無惨	偶然	嗚咽	襟元	眺める	徒労	黄昏	自決			

※皆さんに読んでほしい、太平洋戦争に関する文章をいくつか挙げておきます。

『白旗の少女』 比嘉 富子  
沖縄戦を一人で生きぬいた七歳の少女の記録。太平洋戦争末期の沖縄で、七歳の少女が、一カ月以上も戦場をさまよい、偶然めぐりあった老夫婦の献身で、一人で白旗を持って米軍に投降するまでの愛と感動の記録。



『沖縄戦』 沖縄元知事 大田昌秀

古いけれども読むに値する本。日本兵の攻撃に怒った、アメリカ兵が日本人の非戦闘員を、男なら十二歳でも虐殺したと言う話が出てくる。

※長崎原爆が舞台の作品（参考）

『長崎の鐘』 永井隆 長崎大学医学部の永井博士が執筆したナガサキ原爆文学を代表する一冊。

『長崎原爆記―被爆医師の証言』 秋月辰一郎 福島原爆事故直後から話題になった、長崎の医師によって書かれた被爆証言。